表 8　詳細編 A　観察・会話によるチェック項目の回答結果(n=6)

| 項　　目 | はい | いいえ | わからない | 無回答 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 自分で家内を移動できない(杖、車椅子を含む) | 1 | 3 | 2 | 0 | 6 |
| 転倒や事故などにあった | 1 | 3 | 2 | 0 | 6 |
| 閉じこもり(外出週1回以下) | 3 | 2 | 1 | 0 | 6 |
| 買物ができない | 4 | 1 | 1 | 0 | 6 |
| 最近頼りになる家族の死(2ヶ月間)に遭遇 | 0 | 3 | 3 | 0 | 6 |
| 最近転居、長期入院から退院した | 0 | 5 | 1 | 0 | 6 |
| 同居でも毎日本人は弁当購入 | 0 | 2 | 2 | 2 | 6 |
| 屋外に長時間一人でいる | 0 | 5 | 1 | 0 | 6 |
| 食事が摂れていない | 0 | 3 | 3 | 0 | 6 |
| 家事が出来てない | 2 | 1 | 3 | 0 | 6 |
| 経済的に苦しい<br>(収入なし、家族が失職・金銭搾取等されている) | 1 | 4 | 1 | 0 | 6 |
| 必要な福祉サービスを中断・利用していない | 4 | 1 | 1 | 0 | 6 |
| 家族との接触少ない<br>(昼間独居、同居家族と必要最低限の会話) | 4 | 1 | 1 | 0 | 6 |
| 正月3が日は誰とも過ごしていない、一人だった | 2 | 1 | 3 | 0 | 6 |
| 眠れない、不安や心配事などがありますか | 1 | 1 | 3 | 1 | 6 |

表 9　詳細編 B チェック項目の回答結果(n=4)

| 項　　目 | はい<br>人数(%) | いいえ<br>人数(%) | わからない<br>人数(%) | 無回答<br>人数(%) | 計<br>人数(%) |
|---|---|---|---|---|---|
| 毎日の生活が充実していますか | 0 | 3 | 0 | 1 | 4 |
| これまで楽しんでやれていたことが今も楽しんでできていますか | 0 | 3 | 0 | 1 | 4 |
| 以前は楽にできていたことが、今ではおっくに感じられますか | 3 | 0 | 0 | 1 | 4 |
| 自分は役に立つ人間だと考えることができますか | 0 | 2 | 0 | 2 | 4 |
| わけもなく疲れたような感じがしますか | 2 | 0 | 0 | 2 | 4 |

詳細編 C に関しては、認知症が疑われるサインに関する項目で、15 項目となっている。

詳細 C 項目の中で、「日時をよく間違う、約束を全く忘れている、ゴミの日をよく間違う」、「同じことを何度も言ったり、聞いたりする、話したばかりの内容を忘れる」の 2 項目は、6 人中「はい」に○がついたのは、4 人であった。6 人中 3 人が「はい」に○をした項目は、「服装や髪の手入れにかまわなくなった」、「最近の出来事が思い出せない」であった。また、「わからない」との回答が多かったのは、「同じ食品・品物を何度も買っている」が 6 人、「入浴を極端に嫌がる・身体の汚れが目立つ」、「薬の飲み忘れ、飲み過ぎが目立つ」の 2 項目で 6 人中 4 人であった。

表 10　詳細編 C チェック項目の回答結果(n=6)

| 項　目 | はい | いいえ | わからない | 無回答 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 服装や髪の手入れにかまわなくなった | 3 | 1 | 0 | 2 | 6 |
| よく道に迷い帰宅できない、歩き回り不審がられる | 1 | 4 | 1 | 0 | 6 |
| 鍵などの大事なものの置き忘れ、しまい忘れが目立つ | 1 | 2 | 2 | 1 | 6 |
| 日時をよく間違う、約束を全く忘れている、ゴミの日をよく間違う | 4 | 0 | 2 | 0 | 6 |
| 計算が出来ない(財布が小銭で一杯、札のみ支払う) | 1 | 1 | 2 | 2 | 6 |
| 同じことを何度も言ったり、聞いたりする<br>話したばかりの内容を忘れる | 4 | 1 | 1 | 0 | 6 |
| 通帳・財布などを盗まれたと騒ぐ | 0 | 3 | 3 | 0 | 6 |
| 夜中に平気で外出・活動する<br>近隣のチャイムをよく鳴らす | 0 | 4 | 2 | 0 | 6 |
| ゴミの出し方が分からない<br>ゴミの口がきっちり結べない | 1 | 3 | 2 | 0 | 6 |
| 入浴を極端に嫌がる・身体の汚れが目立つ | 1 | 1 | 4 | 0 | 6 |
| 同じ食品・品物を何度も買っている | 0 | 0 | 6 | 0 | 6 |
| 怒りっぽくなった | 0 | 4 | 2 | 0 | 6 |
| 薬の飲み忘れ、飲み過ぎが目立つ | 1 | 1 | 4 | 0 | 6 |
| 腐ったものと新鮮なものの区別がつかない | 0 | 3 | 3 | 0 | 6 |
| 最近の出来事が思い出せない | 3 | 3 | 0 | 0 | 6 |

その他気になることについては、6 人中 3 人が「気になることがある」と答えていた。気になることの内容については、「思考力の低下」、「見守り対象者が何事も娘の指示に従っており、気になっている」、「もの忘れが多く、約束できない。困ったことがあっても人に頼られない」といった内容であった(表 11)。チェックリスト項目の「はい」に○がついている事例については、表 12 の内容であった。

表 11　詳細編 C その他気になることの内容

数年前の交通事故の後遺症と思われる思考力の低下がうかがえる。日常の出来事を正しく理解できていない。(例えばリフォームの業者のチラシを見て、役所からの請求があったと勘違いをしてさわいでいる。)

Mさんは、5年前より娘と同居となる。娘さんはお勤めが不規則の様で、Mさんは、娘の勤務先・休日・帰宅時間など把握されておらず、娘さんに会って話し合うことが出来ない状態です。○○ケアさんもしっかり見守って下さっているのですが、Mさんは何事も娘さんの指示に従われている様に思います。娘さんの意識が変わらないと前進しないと感じます。先日、先生のお話を伺い、とても気になっています。

短い会話をしている時は普段どおりです。長いお話をしていると何度もお話のくりかえしが続きます。もの忘れが多くなり、お約束事はできなくなりました。困ったことが起こってもあまり人に頼られません。

表 12　チェックシート項目の「はい」に○のついている事例

| No. | 年齢 | 世帯の状況 | 身体不自由 | 緊急連絡先 | 見守りが必要な対象者の状況 | 今後の対応 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 65 | 単身 | なし | 遠い親戚 | 金銭管理に問題あり。年金収入の2か月分を1ヶ月で使ってしまう。ボランティアとしての活動範囲対象外(限界)であり、あんしんすこやかセンターに相談し、手を売ってもらっている。<br>・数年前の交通事故の後遺症と思われる思考力の低下がうかがえる。日常の出来事を正しく理解できていない | 普段どおり挨拶や声をかける<br>・専門職の見守りを希望 |
| 7 | 66 | 単身 | うつ病にみえる | あり | ・ポストに郵便・新聞がたまっている<br>・上の部屋がうるさいと怒る<br>・夜も家の明かりがつかない | 普段どおり挨拶や声をかける |
| 15 | 不明 | 単身 | なし | 不明 | ・無気力又は無表情、意欲・生気が感じられない<br>・最近頼りになる家族の死に遭遇、閉じこもり<br>・大事なものの置き忘れ、しまい忘れが目立つ<br>・同じことを何度も言ったり、聞いたりする、話したばかりの内容を忘れる。<br>最近の出来事が思い出せない | 訪問したり、電話をかけて様子をみる |
| 34 | 不明 | 単身 | なし | 不明 | ・11月に引っ越しだが、部屋の荷物(足の踏み場もない)が気になる<br>・買い物ができない<br>・必要な福祉サービスを中断・利用していない<br>・家族との接触が少ない<br>・正月3が日誰とも過ごしていない、一人だった | 普段どおり挨拶や声をかける |
| 76 | 不明 | 子と2人 | 身体虚弱、足のむくみあり | 不明 | ・最近は訪問しても顔をみせてくれなくなった。家に閉じこもっている様子で熱中症や足のむくみが気になる。<br>・5年前より娘と同居、何事も娘の指示に従っているようだ。娘の仕事が不規則で、会って話し合うことができない。<br>・姉とコミュニケーションがとれる様努める。近隣で信頼できる方に救急時の通報を依頼する。 | あんしんすこやかセンターに相談 |
| 77 | 不明 | 単身 | なし | 甥 | ・短い会話をしている時は普段どおりであるが、長い話をすると何度も同じ話の繰り返しが続く。<br>・もの忘れが多くなり、約束が出来なくなった。<br>・困ったことがあっても人に頼らない。 | 普段どおり挨拶や声をかける |
| 79 | 不明 | 子と二人 | なし | 不明 | ・無気力又は無表情、意欲・生気が感じられない<br>・息子と同居しているが、周囲から見た目と息子が感じていることとのギャップを感じる。<br>(はいに○のある項目：閉じこもり、買物ができない、必要な福祉サービスを中断・利用していない、家族との接触が少ない、道に迷い帰宅できない、日時の間違い、同じことを何度も言ったり聞いたりする、ゴミの出し方がわからない、薬の飲み忘れや飲みすぎが目立つ) | あんしんすこやかセンターに相談 |
| 80 | 不明 | 単身 | リューマチで手指が麻痺 | あり | (はいに○のある項目：会話が通じにくい、自分で家内を移動できない、転倒や事故にあった、閉じこもり、買物ができない、家事ができない、眠れない、同じことを何度も言ったり聞いたりする) | 記載なし |

〈考察〉

見守りの対象者は、年齢的に 70 歳代から 80 歳代の高齢者が 50%で、見守り対象者の 21%に身体不自由がある状況である。世帯の状況は一人暮らしの高齢者が 84%を占めている。このような中、高齢者が地域で生活するためには、日常の場における見守りが大切となる。K 市では、地域包括支援センター(あんしんすこやかセンター)に第 4 の専門職として配置している見守り推進員は、見守り推進員は、地域住民による見守り活動への支援や介護予防の推進等を行っている。

一人暮らしの高齢者が多いことから、緊急時の連絡先を明確化しておくことが必要となるが、今回の調査では、緊急連絡先が明らかな人は半数程度であった。しかし、今回の調査結果で緊急連絡先が不明なケースについては、あんしんすこやかセンターの専門職が把握しているケースが多い状況にあり、地域見守り組織メンバーとあんしんすこやかセンターの専門職間で連携してフォローを行うことで、緊急時の対応が可能となっている。また、緊急連絡先が「子」、「兄弟」、「親類」といった親族を緊急の連絡先としており、親族との交流が見られていると考える。このことは、15 年前に震災を経験した人びとが見守り対象の世代となり、緊急時、「頼りになるのは、近所の人」であることや連絡先が必要なことを実感しており、周囲に連絡先を知らせていると考えられる。

見守りチェックシート内容では、基本編で、「閉じこもり」、「ポストの郵便・新聞、雨戸がしまりっぱなし」、「家や家周囲の散らかり」、「家の明かりがつかない」等、日常の状況を確認する必要のある事例が該当し、見守り活動としては、挨拶や声かけ、電話・訪問といった見守りが行われていた。また、「会話が通じない」場合や認知機能が低下している場合には、あんしんすこやかセンターの専門職が対応していた。今後の対応については、地域見守り組織メンバーの実現可能範囲である「普段どおり挨拶や声かけ」が多く、見守り専門職の存在によって地域見守り組織メンバーによる見守りは実現可能な範囲で見守りを行っている場合が多いと考えられた。

詳細編の項目に関しては、数は少ないが金銭面でのトラブルや生活に支障があるケースが見られるため、専門職のフォローが不可欠である。

今回のチェックシートでは、地域見守り組織メンバーが見守り対象者の生活の様子を確認し、専門職の介入が必要なケースを明らかにするためには役立つと考えられるが、あんしんすこやかセンターが新たに介入できたケースの発見につながるかについては、今後検討する必要がある。

また、チェックにとどまらず、該当項目によるフォロー方法を明確にするフローチャート式のチェックリストであれば、介入が必要なケースの発見から対応につなげる有用なチェックシートとなるのではないかと考える。さらに、新規に加わったメンバーと長年見守り活動を行っているメンバーが共通項目でよいか検討をすることも必要と考える。

地域見守り組織メンバーが活用できる見守りチェックシートにするためには、あんしんすこやかセンターの見守り専門職と地域見守り組織メンバーの意見を取り入れながら項目の整理、フローチャート化を進めていくことが大切と考える。

〈まとめ〉

今回の見守りチェックシート案を試行してもらった結果から、以下のことが考えられた。

1. K 市では、震災の経験から、市民が緊急時、「頼りになるのは近所の人」であることや緊急時の連絡先が必要であり、周囲に緊急連絡先がわかるようにしておく大切さを実感していると考えられる。緊急連絡先が明らかになっていることは、地域見守り組織メンバーの活動負担の軽減や見守り推進員の適切な対処にもつなげやすい。
2. K 市では、単身高齢者が 8 割を超えているが、単身であっても高齢者が地域で安心して過ごせるよう、あんしんすこやかセンター第 4 の職種見守り推進員が地域見守り組織活動を支えることで単身高齢者の地域での生活を支えていると考える。
3. 今回の見守りチェックシート案に関して、地域見守り組織メンバーが見守り対象者の生活の様子を確認することに役立つが、チェックシートの該当項目から対処法が明確になるフローチャートとすることで、チェックシートを有効に活用し、適切な対応までつなげることができると考える。

## 2. グループインタビュー調査

### 1） 目的・方法

○ **調査の目的**：本章では、セルフ・ネグレクト状態の中・高年齢者等の早期発見に繋がる地域見守り組織を育成するための研修プログラムを実施し、研修参加者のグループディスカッション内容から、見守り専門職が配置され、住民主体の見守り活動が活発である K 市 M 地区の見守り体制の状況を明らかにし、適正な見守り組織のありかたを検討する。

○**方法**：

(1)対象者：対象者は、前年度アンケート調査協力 2 地区(A 地区および B 地区)の見守り組織メンバー(民生・児童委員、友愛訪問ボランティア)であり、対象者は A 地区 27 名、B 地区 15 名、合計 42 名である。

(2)**方法**：前年度アンケート調査の結果報告会と同時に高齢者虐待に関する研修会を行う。研修プログラムの内容は以下のとおりである。

①前年度アンケートの結果報告(10 分)

②DVD 視聴「介護殺人～防げなかった親子心中」(約 13 分)

③グループワーク、発表(約 50 分) 1G 6～7 人

a. グループワークその 1(全体) 約 20 分

なぜ K 被告は助けを求められなかったのでしょうか。

b. グループワークその 2(約 20 分)

b-1 立場その 1(隣人グループ)

あなたがとなりの人だったらどうしますか。

b-2 立場その 2(見守りグループ)

あなたが見守り組織の人だったらどうしますか。

(3)**日時**：A 地区 2009 年 7 月 31 日、B 地区 2009 年 8 月 3 日

(4)**データ内容**：上述した高齢者虐待に関する研修会で行ったグループワーク内容を IC レコーダーに録音し、その後逐語録データを作成した。

(5)**分析方法**：逐語録データから抽出した発言内容は、通常我々が使用する言語である「自然言語」に分類される。「自然言語」をコンピュータ分析する技術の一つで、文章を単語に分割する形態素解析を行い、データ解析を試みた。テキストマイニングツールは、数理システムの「Text Mining Studio」を用い、基本情報分析、単語頻度解析、係り受け頻度解析、注目語分析、特徴語分析、評判抽出、ことばネットワーク分析を行った。また、分析を行うにあたり、適正な分析を行うために、類義語辞書登録や単語の原文を確認するための原文参照機能を活用した。今回の分析では、グループディスカッションで主要な話題となった内容を単語から分析するために、単語頻度解析結果、注目語情報結果を用いて分析を行った。

## 2） 分析結果

今回、A・B 地区における研修時のグループワークのデータ数は、308 件であった。

### (1)単語頻度解析

出現頻度の高い単語は、「近所」、「声」、「相談」、「かける」、「お母さん」、「民生委員」、「介護」、「緊急時」、「見守る」であった。原文参照の内容から、「近所」に関しては、「近所の人が声をかける」、「男の人なのでご近所づきあいがない」、「近所が気を使ってお母さんどうなのとか声をかければ、最終的に死に至らなかったのではないか」、「日ごろから気にとめてその家の前を通った時に『声がするかな』とか『明かりがついているかな』とか様子を伺う(見守る)ことができたんではないか」、「同じ近所でも中が見えない」、「何かあったら隣近所に言ってくれると対処が早い」、「隣人として緊急時にはどうするか」、「緊急時のことを考えて何かあったときは隣近所、自治会長さんに連絡して下さいと言っておくことが必要」、「周りと関わらない人に対して働きかける方法はないだろうか」といった内容がきかれた。

「民生委員・見守り」に関しては、「民生委員や集落の人は知っているので、行政の人に話す必要があった」、「民生委員に相談したらよい」、「男の人がお母さんを連れて出かけているのを見かけたら、見守りボランティアが民生委員に『こういう人がいますよ、気にかけておいてください』と言っておく」、「見守りができない地域の人については、そこに住んでいる人に頼んで見守ってもらう」、「民生委員は一人暮らしや高齢世帯を見守っているので、昼間働いていて昼間高齢者だけになる家庭が地域にあることを把握すること自体難しい」、「見守りグループとしてどこまで立ち入ることができるか大きな問題である」、「お母さんと一緒に住んでいる人が 54 歳男性であり、近所づきあいがなく、年に何回かお会いしないので、隣でもわからないことが多すぎて見守りができない」、「見守りに対して見張られていると思うか見守られていると思うかで、見守られていると思ってもらえればいいけど・・・」といった内容がきかれた。

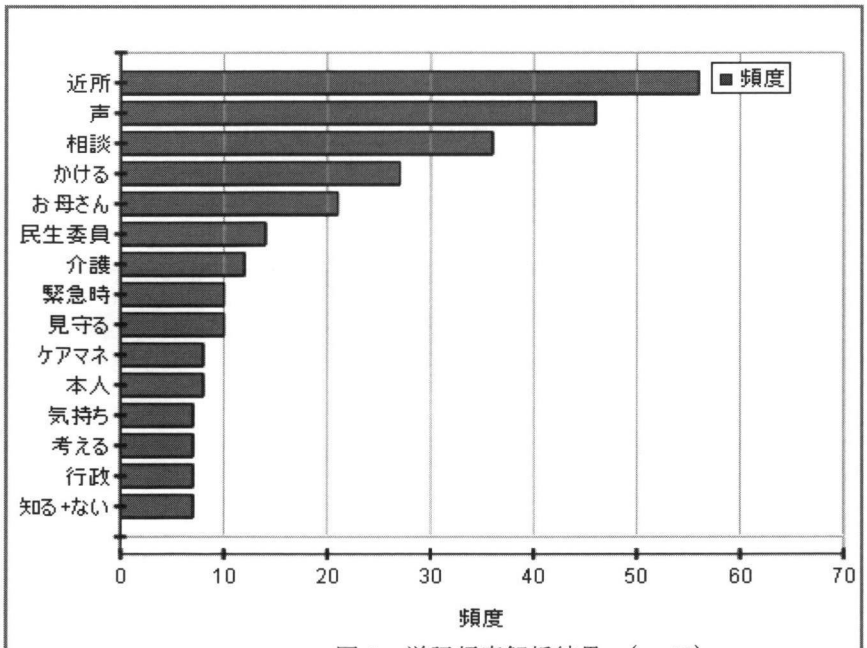


図 1　単語頻度解析結果　(n=42)

「本人」に関しては、「本人が自分から何か発信しないといけない」、「本人が近所にせよ、職場にせよ、民生委員にせよ、相談に行けばよかった」、「お母さんが息子を可愛がりすぎた」、「54 歳の K さんの見通しの甘さが原因と考えられた」、「介護を自分の責任でしようと考

える」、「人がなんでもしてくれるという考えは甘い」、「ケアマネージャーさんに相談する」、「地域サービスのシステムを知らない」、「もう何回も徘徊しているからね、見守り G が『本人に声をかけてやってください』とか、普段から近所に助けを求めていたら、そうしたらもうちょっと近所の人も、手を差し伸べやすい」、「一人息子さんで、お母さんを何とか自分の手で介護したいという、その気持ちが、周りの方などに頼らずにいってしまった、その結果かなと思う」、「Kさんという方が、『相当切羽詰まった気持ち』になっていたんだな」といった内容がきかれた。

その他、公的サービスに関する内容として、「行政が当然援助しないといけない」、「行政の人に家に来てもらう」、「K さんのようなケースの場合、行政が関わっていたら、こんなことにはならなかったのではないか」「行政に相談に行ったのでもう少し丁寧な対応が必要」、「福祉に頼ろうとした場合、どこに頼むか知らない」、「お母さんが認知症、息子さんがお母さんの介護をしているので、お母さんを預かってくれる施設があれば」、「(金銭的な面では)お母さんの年金があるのではないのか」、「介護保険を利用できるようにする」といった内容がきかれた。

### (2)注目語情報分析

原文参照を活用した単語頻度解析の結果、「近所」、「男性」、「行政」の3つがキーワードであると考えた。3つのキーワードがグループディスカッションの中でどのような意見で語られているのか確認を行うため、注目語情報分析を行った。その結果、「近所」では、「近所の人」、「近所づきあいがない」「男性」では、「男の人」、「行政」では、「行政が関わる」との文脈で使用されていた。

単語頻度解析、注目語情報の分析より、「なぜ K さんが周囲に助けをもとめられなかったのか」については、「本人が男性である」、「近所との付合いがない」、「行政が関わることができなかった」という 3 つが示され、それぞれの内容について、現状と限界が明らかになった。

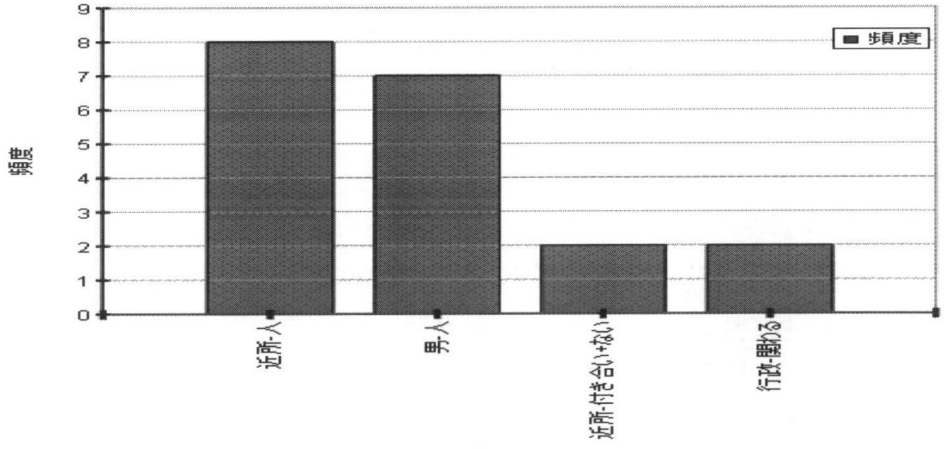


図 2　注目語情報(n=42)

表 1　原文参照から得られた内容　(n=42)

| 「近所」に関する内容 |
| --- |
| 「近所の人が声をかける」、「近所の人が見ている」、「男の人なのでご近所づきあいがない」、「近所が気を使ってお母さんどうなのとか声をかければ、最終的に死に至らなかったのではないか」、「日ごろから気にとめてその家の前を通った時に『声がするかな』とか『明かりがついているかな』とか様子を伺う(見守る)ことができたんではないか」、「同じ近所でも中が見えない」、「男の人だから近所づきあいが下手だったのかも知れない」、「相談できる人を1人や2人作っておくことが大事」、「何かあったら隣近所に言ってくれると対処が早い」、「近所の人がもっとよく見ておく必要がある」、「周りと関わらない人に対して働きかける方法はないだろうか」 |
| 「民生委員・見守りグループ」に関する内容 |
| 「民生委員に相談したらよい」、「男の人がお母さんを連れて出かけているのを見かけたら、見守りボランティアが民生委員に『こういう人がいますよ、気にかけておいてください』と言っておく」、「民生委員をすると高齢者が気になる」「見守りができない地域の人については、そこに住んでいる人に頼んで見守ってもらう」、「民生委員は一人暮らしや高齢世帯を見守っているので、昼間働いていて昼間高齢者だけになる家庭が地域にあることを把握すること自体難しい」、「見守りグループとしてどこまで立ち入ることができるか大きな問題である」、「お母さんと一緒に住んでいる人が54歳男性であり、近所づきあいがなく、年に何回かお会いしないので、隣でもわからないことが多すぎて見守りができない」、「ヤクルト(配達員)が無料で見守りをやっていて、『土日2日間はヤクルトとっていないから覗いてみて』といわれて一応覗いてみたら倒れていることがあり、見守っている時期が大切だと思った」、「見守りに対して見張られていると思うか見守られていると思うかで、見守られていると思ってもらえればいいけど・・・」 |
| 「本人」に関する内容 |
| 「本人が自分から何か発信しないといけない」、「本人が近所にせよ、職場にせよ、民生委員にせよ、相談に行けばよかった」、「もう何回も徘徊しているからね、見守りGが『本人に声をかけてやってください』とか、普段から近所に助けを求めていたら、そうしたらもうちょっと近所の人も、手を差し伸べやすい」 |
| 「公的サービス機関」に関する内容 |
| 「行政が当然援助しないといけない」、「行政の人に家に来てもらう」、「Kさんのようなケースの場合、行政が関わっていたら、こんなことにはならなかったのではないか」「行政に相談に行ったのでもう少し丁寧な対応が必要」、「福祉に頼ろうとした場合、どこに頼むか知らない」、「お母さんが認知症、息子さんがお母さんの介護をしているので、お母さんを預かってくれる施設があれば」、「(金銭的な面では)お母さんの年金があるのではないのか」、「介護保険を利用できるようにする」 |

〈考察〉

今回の研修では、セルフ・ネグレクト状態の中・高年齢者等の早期発見に繋がる地域見守り組織を育成するための研修プログラムを実施し、研修参加者のグループディスカッション内容から、見守り専門職が配置され、住民主体の見守り活動が活発であるＫ市Ｍ地区の見守り体制の状況を明らかにし、適正な見守り組織のありかたを検討することであった。グループワークでは、認知症の母を１人で介護するＫさんがなぜ周囲に助けを求められなかったのかについては、Ｋ さんが男性であり、母親の介護をひとりで抱え込み、近隣との付合いがなく、公的サービスの窓口に関する情報が少なかったために誰にも相談できなかったのではないかとの意見であった。

単語頻度解析や注目語情報の分析から、「近所づきあい」、「男性」、「行政の関わり」の3つが必要と考えていることが明らかになった。「近所づきあい」では、日頃からの近所づきあいが大切であり、近所づきあいを通して、Ｋ さんのようなケースを把握し、近所の住人が見守りを行うことが可能であったのではないかとの示唆を得た。その一方で、息子と同居し、昼間高齢者一人になる家庭の把握の困難性、周囲と交流を持たない男性が介護者の場合の働きかけの方法がない、といった近所の住人による見守りの限界について意見が出ていた。

高齢者の介護者が「男性」であることに関しては、ひとりで認知症の母親を長年介護した Ｋ さんへの共感はあるものの、Ｋさんの見通しの甘さや当事者から SOS を発信する必要性があったと考えていることが明らかになった。

「行政の関わり」に関しては、窓口担当職員の丁寧な対応や介護保険制度が利用できるようにする、といった行政への意見に加え、Ｋ さんが福祉制度申請について相談窓口を知らないといったＫさん側の課題も指摘されていた。

これらのことから、Ｋさんのようなケースを支援するためには、Ｋさん自身が日頃から近所づきあいをとおして緊急時に相談できる人間関係を築いておくことが大切である。しかし、周囲と交流のない男性に対しては、まずは、近所が声かけや外から家の様子を伺う、民生委員と地域の人が連絡しあいながら、見守りを行う必要がある。近所による見守りが土台となって、緊急時、あんしんすこやかセンター職員や行政につなげることで、専門職が適切な対応をすることで、必要な支援につなげることが可能と考えていることが示唆された。

しかし、その一方で息子と同居する高齢者は見守りの対象外となっていることから、Ｋ さんのようなケースを把握することが難しいことや周囲との交流がない人への支援方法がないこと等、近所の住民による見守りの限界がみられた。

〈まとめ〉

今回のグループワークの内容から、地域見守りに関して次のことが明らかになった。

1. 組織の具体的活動内容として、声かけや家の外からの見守り等、民生委員と近所の住人による見守りを土台とした地域見守り活動が行われている。しかし、地域見守り活動の課題として、息子と同居する高齢者は昼間高齢者一人になるが、見守りの対象とはなっておらず、把握が困難である。また、介護者が男性である場合、周囲との交流がない人には、声をかけにくく、緊急時の支援ができない。生活の状況を把握するためには、本人が日頃の近所づきあいを通して緊急時に相談する人や相談ルートを作っておき、緊急時には、自らSOSを発信する必要性について述べられていた。
2. 専門職の対応として、相談窓口担当者は、相談者に丁寧に対応し、必要な制度が活用できるように支援を望む声がきかれた。
3. 今回の研修では、地域見守り活動の活動内容や見守り対象外のケースに対応するための民生委員・近隣、当事者、専門職の役割分担について意見が述べられていた。このことから、事例を用いた研修を通じて、地域見守り活動の活動内容を考え、役割分担を整理した結果、今後、地域における民生委員と近所の住人との協力体制、専門職への連絡、当事者の周囲との交流や情報発信の方法について課題であることが明らかにすることができ、有用であったと考える。

第４章

## まとめ

### 1. 組織育成研修プログラムの実施結果と課題

本年度は、長年、長年、認知症の母親を介護し、必要な際に周囲に助けを求められなかった事例を用いた研修会を行った。研修会では、「本人に関すること」、「近所に関すること」、「民生委員・見守りに関すること」「公的サービス機関に関すること」に関する視点からディスカッションが行われた。「本人に関すること」では、「近所に 1~2 人は相談できる人をつくっておく」、「近所に相談できなかったら、職場本人が必要な際に周囲に助けを求めることができるよう啓発していくことの必要性とともに「挨拶する、声をかける」、「この人がお母さんを連れてオムツを持っていたら、『おかあさんどうですか？大変ですね』と声をかける」等の日常でできる地域見守り活動で近隣との交流のない男性であっても、「援助の必要な時」に「必要な援助ができる」など、地域見守り活動でできることについての意見が多く出された。「近所に関すること」では、隣人の「声かけ」や「それとなく見守る」ことにより、近隣との交流のない男性への見守りの可能性に加えて、男性が親を介護しているケースへの介入の難しさと「近隣であっても家の中はわからない」といったような隣人による見守りの限界について意見が出された。「民生委員・見守り」に関しては、日頃からの民生委員と友愛訪問ボランティアの連携・協力の大切さが語られていた。見守り上の限界に対する工夫として、「ヤクルト配達員」の協力を得ている例が紹介されていた。その一方で、「介護者が働いているため、昼間に 1 人になる高齢者の見守り把握は困難」、「見守りグループがどこまで立ち入るべきか」といった地域見守り組織の課題が明確にされていた。そのことに加えて、「本人」、「地域見守り組織メンバー(民生委員・友愛訪問ボランディア)」、「近所」、「公的サービス機関」それぞれの役割と課題が明確にされていた。

そのことから、今回の研修プログラムの内容は、地域見守り組織メンバーが活動を評価し、見守りが困難なケースについて今後どのように見守りを行っていくかを明らかにする機会となった。さらに、地域見守り組織メンバーが「どこまで見守りを行うことができるか」との課題に対し、見守りの基準や方法等を考える場となったと考えられる。

### 2. 見守りチェックシートの試行状況と課題

今回の見守りチェックシートの試行にあたっては、研修プログラムの中に組み込み、グループディスカッションの直後に見守りチェックリスト試行への協力をお願いした。その結果、計 85 部の協力があり、見守りチェックシート試行への協力依頼を研修プログラムに組み込んだことは良かったと考える。

回収した 85 部の見守りチェックシートの内容から、K 市では、他の地域と比べて単身高齢者が多いが、見守り専門職と地域見守り組織メンバーの連携によって「基本編」12 項目で 1 つでも「はい」に○のある人に関しては、「あんしんすこやかセンターでフォローをしている」ことが明らかになった。そのため、「今後の対応」についても、地域見守り組織メンバーは「普段どおり、挨拶や声かけ」と答えた人の割合が高かった。このことから、K 市では、地域見守り組織メンバーにおける、普段の見守りができているため、早期発見・早期対応が必要と思われるハイリスクな対象者については、見守り専門職の早期介入が可能なシステムができていると考えられる。各項目で「わからない」、「無回答」が見られたことに関しては、見守り専門職が把握している割合が高い。

今後、地域見守り組織メンバーが活用できる見守りチェックシートにするためには、新規で見守り組織メンバーになった人と長年地域見守り組織メンバーとして活

動をしている人について、共通のチェック項目とするのか検討を重ねる必要がある。また、項目該当時の対応をフローチャートにするなどの工夫により、効率的な対応を可能にするチェックシートを目指す必要があると考える。

## 3. 本年度の結論

今年度は、見守り組織育成研修プログラムの実施および新規に作成された見守りチェックシート案の検討を行った。その結果、次のことが明らかになった。

- 見守り組織育成研修プログラムを通して、現状の地域見守り組織の活動状況が明らかになった。K市では、震災後、近隣による互助の必要性や本人がSOSを発信する必要性を感じ、地域見守り組織による見守り活動が活発に行われていることが明らかになった。このことから、今回の見守り組織育成研修プログラムの内容および方法が有効であったと考える。
- 今回の対象地域では、地域見守り組織メンバーは、見守り対象者の早期把握、早期介入を可能とするためには、日頃から近隣との交流（挨拶や声かけ）が大切であると考えて実行していることが明らかになった。
- 見守りチェックシート案では、「基本編」の12項目について、1つでも「はい」に○がついているケースに関して、既に見守り専門職によるフォローが行われていた。このことから、今後この地域では、新規転入者や家族構成の変化の際に活用できる、フローチャート式に項目該当時の対応が明確になるチェックシートを望んでいることが明らかになった。

厚生労働科学研究費補助金

政策科学総合研究事業

# 高齢者等のセルフ・ネグレクト(自己放任)を防ぐ地域見守り組織のあり方と見守り基準に関する研究

## ―平成２１年度継続調査(２年目)報告―
## ＜神戸市須磨区＞

目　　次


研究組織　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

第１章　調査地区の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

第２章　地域見守り組織づくり推進への取り組み・・・・・・・・・・・　4

第３章　調査結果

A. 配布した見守りチェックシートの分析・・・・・・・・・・・・・　7

1）研究目的・方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7

2）結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

B. グループインタビュー調査

1）研究目的・方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　11

2）結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　12

第４章　まとめ・提言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　19



平成２１年度　分担研究報告書《NO　6》



分担研究者　　大井美紀　　鍛冶葉子



平成 22（2010）年 3 月

## 研究組織

＜本報告書作成者＞

分担研究者：鍛冶葉子　（甲南女子大学看護リハビリテーション学部　助教）
大井美紀　（甲南女子大学看護リハビリテーション学部　准教授）

研究協力者：大野真喜恵（神戸市須磨区保健福祉部あんしんすこやか係　保健師）
萩原　哲　（神戸市須磨区保健福祉部健康福祉課　課長）

研究組織構成メンバー

研究代表者：津村智惠子（甲南女子大学看護リハビリテーション学部　学部長）

分担研究者：河野あゆみ（大阪市立大学医学部看護学研究科　教授）
和泉京子（大阪府立大学看護学部看護学研究科　准教授）
臼井キミカ（大阪市立大学医学部看護学研究科　教授）
大井美紀（甲南女子大学看護リハビリテーション学部　准教授）
桝田聖子（甲南女子大学看護リハビリテーション学部　助教）
鍛治葉子（甲南女子大学看護リハビリテーション学部　助教）
前原なおみ（甲南女子大学看護リハビリテーション学部　助教）
上村聡子（甲南女子大学看護リハビリテーション学部　助教）
金谷志子（福井県立大学看護福祉学部看護学科　講師）
川井太加子（桃山学院大学社会福祉学部社会福祉学科　准教授）
山本美輪（明治国際医療大学　講師）

# 第１章　神戸市須磨区の調査地区概要

## 1．調査地区概要

### 1)調査地区の状況

| | | | |
|---|---|---|---|
| 市町村名 | 神戸市(須磨区) | | |
| 市町村の概要 | 須磨区は、神戸市の中西部に位置し、南側の古くからある市街地と北側の大規模なニュータウンとで構成された閑静な住宅地というのが、その特徴的な姿である。毎夏、多くの観光客で賑わう「須磨ビーチ」や明石海峡大橋が一望できる須磨の山々「須磨アルプス」などの自然に恵まれ、「源氏物語」ゆかりの地としても注目されている。面積は、約 30 ㎢で、神戸市の約 5.4%を占め、人口は約 17 万人で約 11%を占めている。 | | |
| 人口(H20.3 月現在) | 170,737 人 | 65 歳以上人口<br>(高齢化率)<br>(H20.3 月末現在) | 39,258 名(23.0%) |
| 調査区市・区の包括支援センター数 | 神戸市　74 ヵ所　(須磨区8ヵ所)を含む | | |
| 調査地区の包括支援センターの専門職 | 常勤:主任ケアマネージャー1 名、社会福祉士 1 名、保健師 1 名、見守り推進員 1 名 | | |
| 見守り組織の名称、数(人数) | 須磨区には、8 ヵ所のあんしんすこやかセンター(地域包括支援センター)が配置されている。<br>今回の調査における主たる地域は、東部 3 地区(板宿・東部・だいち中部)である。これら隣接する3地区においては、あんしんすこやかセンター・民生児童委員、友愛訪問グループ等関係機関組織の相互連携による活動が活発である。 | | |
| 見守り活動の状況 | だいち中部地区:須磨区の東端に位置し、隣接する長田区とともに 13 年前の阪神・淡路大震災で甚大な被害を受けたが、都市計画事業の進捗により新しい街として変貌を遂げ、新興住宅地として発展している。地区内には、震災復興住宅が 8 棟も建設され多くの被災者が入居し、その多くが見守りの必要な 65 歳以上の独居高齢者である。(高齢化率 22.3%)<br>板宿地区:だいち中部地区に隣接する旧住宅地である。高齢化率 31.0%と高く、地域包括支援センター(あんしんすこやかセンター)を中心とした地域見守り活動も活発である。<br>東部地区:家内工業や商店街を有した地域であり、商店街は一人暮らしの高齢者の利用も多い。(高齢率 22.2%)<br>以上の 3 地区の民生児童委員は「東部 3 地区」として連携し、地域包括支援センターと共に地域の見守り活動を積極的に行っている。(地域包括支援センターに配属されている見守り推進員は、民生委員や友愛訪問グループ等と連携して地域見守り活動支援、介護予防活動の推進を行っている) | | |

### 2)調査地区の位置

・だいち中部地区…須磨区の東端、JR 鷹取駅北に位置し、隣接する長田区とともに 13 年前の阪神・淡路大震災で甚大な被害を受けた地域である。都市計画事業の進捗により新興住宅地として発展している。須磨区役所、警察署も徒歩数分ところにある他、駅や市バス路線などの交通網もよい。

・板宿・東部地区…だいち中部地区と近接しており、いずれも旧商業地域を含んでおり、一人暮らしの高齢者らの利用も多い。

以上の 3 地区全体で見ると住宅地と商業地域が混在する地域である。本区では、防犯活動をはじめクリーン作戦、子育て支援活動、地域見守り活動など、活発な地域コミュニティ活動が展開されている。

**3)交通機関**

3 地区ともに JR 鷹取駅、市バス鷹取駅他市バス路線、山陽電鉄東須磨駅など交通機関の便がよい。徒歩数分のところに、商店街や公共機関(区役所・警察署等)が有る。

**4)高齢者の組織**

神戸市における高齢者見守りのための組織体制は、H20報告書のとおり。

**5)地域包括支援センターの活動概況**

・困難事例への対応

困難事例支援については、適宜、あんしんすこやかセンタースタッフが地域の見守り関係組織・機関(区役所あんしんすこやか係担当者、民生児童委員、ケアマネージャー、福祉事務所等)との調整が図られ、ケース検討会議が開催される。具体的には、事例のアセスメント(本人及び介護者の身体、経済、生活状況、緊急性の判断、事実確認及び確認後の対応状況等)、必要に応じて区からの情報提供や同行訪問、諸制度・サービスの活用、今後のフォローアップ体制や役割分担の検討等である。近年増加傾向にある経済的虐待や認知症高齢者の権利擁護などを内包する困難事例への対応については、弁護士や司法書士を含めた専門チームが編成される。

・地域におけるネットワーク構築

須磨区内には8つの地域包括支援センター(あんしんすこやかセンター)があり地域見守り支援の拠点としての機能を有している。各センターでは、区役所や区社会福祉協議会の他、対象地域の民生児童委員や友愛訪問グループ、ふれまち協(須磨区内にある自治会・婦人会・老人会・NPO 等)など既存の見守りネットワーク関係機関との連携を密に図り活動している。

平成 20 年度には、管内 8 ヵ所のあんしんすこやかセンターと、その対象地域内にある 23 の民生児童協議会間で「小地域見守り連絡会」が編成された。これにより須磨区では 8 ヵ所全てのあんしんすこやかセンターにおいて小地域見守り連絡会が組織化されたことになる。小地域見守り連絡会は、それぞれのあんしんすこやかセンターが中心となり会議を開催(年 4-5 回、ところにより 1-2 回)し、関係者間の情報交換や、研修会等地域の特性に応じた企画がされている。連絡会には、区役所のあんしんすこやか係(保健師等)も参加し、行政との協働が図られている。

・見守り推進員による地域見守り活動

各あんしんすこやかセンターに配置されている見守り推進員は、区社会福祉協議会やあんしんすこやかセンターの専門職、関係組織らと共に、地域見守り活動の支援を行っている他、介護保険地域支援事業(介護予防・仲間づくり交流事業や高齢者自立支援拠点事業等)の推進にも携わっている。須磨区における見守り推進員の活動も活発であり、友愛訪問グループや民生児童委員による見守り活動への助言や同行訪問など個別対応がされている。

以上のように神戸市における「見守り推進員(各包括支援センターに 1 名)」の配置は、包括支援センター活動業務としての地域見守り活動を効果的に推進する一因となっている。

## 第２章　地域見守り組織づくり推進への取り組み

今回の研究協力に関しては、甲南女子大学地域看護学教員が平成 19 年より地域連携（須磨区高齢者虐待防止ネットワーク運営委員会メンバーとしての活動）を図っている神戸市須磨区に対して、研究協力を依頼し、承諾を得た。（調査においては、須磨 3 地区の民生児童委員、友愛訪問グループ、包括支援センター、ふれまち協等の関係者の皆様にご協力を頂いている）

須磨区においては、第1章で述べたとおり、神戸市における地域見守り活動の全市展開に基づき、区の特色をだしながら地域見守り組織づくりの推進がされているところである。

本章では、はじめに、震災経験から生まれた地域見守り活動（孤独死防止への取り組み等）の経緯、会則等を紹介する。次に、神戸市で定期的に開催されている見守り推進員等への研修の内容及び、活用されている見守り基準（主に専門職側の基準）について報告する。最後に、本年度、須磨区において実施された地域見守り活動に関連した主たる研修・啓発活動内容について述べる。

### １．神戸市における地域見守り活動の全市展開について

**システム構築の経緯**

神戸市では、昭和 40 年代後半より、民生委員活動として先駆的に友愛訪問を開始していた。さらに昭和 53 年以降ボランティアによる友愛訪問グループの組織化、昭和 55 年からは、ふれあい給食サービスなどの住民間での交流事業が展開されていた。

平成７年１月の阪神・淡路大震災により、家族や自宅、コミュニティを失い仮設住宅や復興住宅への入居を余儀なくされた被災高齢者が多く生じた。さらに、多くの被災高齢者に関する孤独死や閉じこもりが社会問題となり、従来の民生委員や住民による地域見守り活動だけの支援では困難な状況が生じ、公的支援システムが検討された。

平成９年度には、シルバーハウジングに生活援助員(LSA)、復興公営住宅には、高齢世帯支援員が派遣され地域見守り活動及び災害復興住宅のコミュニティ再構築支援が行われた。

平成 12 年度には、単身高齢者等の孤独死の問題が全市的問題であるとの認識下、地域見守り活動は、全市的に展開された。しかし、震災 10 年以上を経過し、入居者のさらなる高齢化や、民生児童委員の欠員等の新たな課題が明らかになった。

平成 13 年度には、前年度の課題への対応策として、市民に身近なあんしんすこやかセンター（在宅介護支援センター）に新たに「見守り推進員」を配置して、民生委員、友愛訪問ボランティア、見守りサポーター等との連携・協働を図りながら、高齢者の見守り活動及び、コミュニティ形成支援を行った。

平成 14 年には、単身高齢者の日々の暮らしを見守る手段の一つとして、ガスメーターの ICT を活用した高齢者見守りサービスのモデル事業を実施、その効果や有用性を検証し、平成 15 年度以降全市に拡大した。

平成 17 年度には、見守りサポーターを見守り推進員として統合して継続配置するとともに、あんしんすこやかセンターを地域見守りの拠点として位置づけた。

平成 18 年度以降は、見守り推進員を地域包括支援センターに 4 人目の専門職として配置し、地域見守り活動、介護予防推進の取り組みが行われるようになり、現在の活動に至っている。

## 2．須磨区において開催された地域見守り活動に関連する研修・啓発活動内容

### 1）地域ケア会議・須磨区高齢者虐待防止ネットワーク運営会議

須磨区においては、下記のとおり年に2回程度の地域ケア会議と、年3回程度の須磨区高齢者虐待防止ネットワーク会議が開催されている。いずれも地域の中で高齢者を支えるネットワーク体制として機能している(表1)。

**表1　地域ケア会議・須磨区高齢者虐待防止ネットワーク会議**

| 会議 | 地域ケア会議 | 須磨区高齢者虐待防止ネットワーク会議 |
|---|---|---|
| 開催 | 年2回程度 | 年3回程度（ネットワーク運営委員会と講演会） |
| 目的 | 高齢者を支えるネットワーク体制 | 高齢者虐待を防ぐネットワーク体制 |
| 構成メンバー | 医師・歯科医師・薬剤師・警察・消防各施設長・あんしんすこやかセンター（代表）・行政職（保健師等）<br>民生委員協議会代表 | 医師・弁護士・須磨警察署生活安全課<br>全あんしんすこやかセンター代表福祉施設長<br>訪問看護（看護師）<br>民生児童委員協議会代表・行政（須磨区） |
| 活動内容 | 情報交換や研修等<br>・新型インフルエンザ（最新情報）<br>・須磨区の次期計画について | ・情報交換や事例検討（より良い支援のため実践力を高めること、対人援助に要求される職業倫理や価値観についてなど）<br>・高齢者虐待に関する講演・研修会開催 |
| 21年度内容 | ・危機管理体制（新型インフルエンザ）の検討<br>・各関係機関の活動報告等 | ・事例検討会を中心に開催 |
| 備考 | | ・講演会には、広く須磨区民も対象としているため、毎年、多数の地域見守り関係が参加している（友愛訪問ボランティア他）<br>・委員長（甲南女子大学　大井　美紀准教授） |

### 2）須磨区ケアマネージャー研修会（19年度より開催）

須磨区内の各あんしんすこやかセンターが中心となり（須磨区あんしんすこやか係協力）、ケアマネージャーの活動支援のために研修会を企画運営している。（参加者：須磨区内居宅介護支援事業者ケアマネージャー約60名程度、あんしんすこやかセンター職員10名程度）

平成21年度の第2回研修会（21．11月）テーマは、「精神疾患を持つ利用者や患者との関り方、対応の仕方について」である。ケアマネージャーが、精神疾患などをもつ高齢者や、家族が在宅生活を続けていくためにどのように対応し、支援していくかを学び、活動に生かしたいというニーズが高まり、今回のテーマに決定した。実際に、精神科病院に勤務している看護師の講演（疾患や、対応方法）等を聞き、参考になったとの意見が聞かれた。平成22年度も継続予定である。

### 3）須磨区高齢者虐待防止講演会（セルフ・ネグレクトに関する公演）

21年度、須磨区においては、本研究（7月に実地した調査結果により明らかとなった、見守り組織の実態や課題をふまえ）の一環として、以下の講演会を開催した（表2）。

**表2　須磨区高齢者虐待防止講演会(2009. 11. 12　須磨区健康館パティオホール)**

| | |
|---|---|
| 1.テーマ | 高齢者が暮らしやすい地域づくり<br>－高齢者虐待やセルフ・ネグレクトの早期発見対応－ |
| 2.目的 | ・地域で生活するセルフ・ネグレクト状態の高齢者等の早期発見を可能にする須磨区の特性を踏まえた地域見守り組織のあり方について、住民や関係者とともに考える機会とする。 |
| 3.主催(共催) | 須磨区(甲南女子大学看護学科　地域看護学) |
| 4.参加者 | ・201 名<br>(民生児童委員　62 名、友愛訪問　81 名、あんしんすこやかセンター　15 名<br>介護保険事業者　19 名、医療機関　3 名、その他(弁護士・行政・大学院生他)<br>21 名 |
| 5.内容 | 講演者:津村　智恵子(甲南女子大学看護リハビリテーション学部教授)<br>・高齢者虐待の防止に関する最新の知見や動向(セルフ・ネグレクトの定義含む)<br>・住民主体の見守り体制について(見守りチェックシートの活用など) |
| 6.評価等 | 【全体評価】<br>参加者の多くが、具体的な事例への対処方法に対するニーズが高かった。<br>昨年以上に高齢者虐待に関する住民の関心度の高まりがみられた。<br>今後の課題としては、見守り判断基準を活用した介入方法などより具体的な地域での実践活動に関する効果検証などがある。<br>良かった(54%)普通(36%)良くない(4%)無記入(6%)<br>【民生委員児童委員】<br>・見守りチェック度は、今後の活動に活かせそうだと思った。<br>・見守りがいかに大切かが良く分かり、今後も気を付けて訪問活動をしたいと思った。<br>【友愛訪問グループ】<br>・高齢者の虐待や介護問題など、自分自身の問題として捉え生かしたい。<br>【介護保険事業者等、えがおの窓口】<br>・事業所のケアミーティング等に資料を役立てたいと思った。<br>・見守りチェックシートを活用したいと思った。<br>・虐待だけでなく認知症のサインは、訪問事業所にとっても助かると思った。 |